

## 環境リスク初期評価の進捗状況

令和2年12月17日  
環境保健部環境リスク評価室

### 1. 化学物質の環境リスク初期評価について

化学物質の環境リスク評価とは、評価対象とする化学物質について、①人の健康及び生態系に対する有害性を特定し、用量（濃度）－反応（影響）関係を整理する「有害性評価」と、②人及び生態系に対する化学物質の環境経由の曝露量を見積もる「曝露評価」を行い、③両者の結果を比較することによってリスクの程度を判定するものである。

環境省では、環境リスク管理のための施策を念頭に置きつつ、多数の化学物質の中から相対的に環境リスクが高い可能性がある物質をスクリーニングするための初期評価として、健康リスク及び生態リスクに渡る「環境リスク初期評価」を実施している。

健康リスク初期評価は、化学物質の人の健康に対する有害性の評価を行った上で、その物質の環境に由来する曝露が人の健康に及ぼすリスクについてスクリーニング的な評価を行うものである。

生態リスク初期評価は、化学物質の水生生物に対する生態毒性の評価を行った上で、その物質の水からの曝露が生態系に及ぼすリスクについてスクリーニング的な評価を行うものである。

### 2. これまでの推進状況について

環境省では、平成9年度より化学物質の環境リスク初期評価に着手し、これまでに18次に渡り取りまとめ、環境リスク初期評価として286物質、追加的に実施した生態リスク初期評価として92物質について評価結果を公表したところである。これまでの推進状況については表1のとおりである。

評価結果は、「化学物質の環境リスク評価」（通称「グレー本」）として公表している。なお、これまでの評価結果の概要については別添参考のとおりである。

表1 環境リスク初期評価の進捗状況

取りまとめ	公表時期	環境リスク初期評価	追加的に実施した生態リスク初期評価
パイロット事業	平成14年1月	39物質	—
第2次	平成15年1月	13物質	69物質
第3次	平成16年7月	21物質	32物質
第4次	平成17年8月	20物質	9物質
第5次	平成18年10月	23物質	6物質
第6次	平成20年2月	21物質	11物質
第7次	平成21年3月	23物質	10物質
第8次	平成22年3月	16物質	7物質
第9次	平成23年1月	14物質	7物質
第10次	平成23年12月	17物質	2物質 <sup>注1</sup>
第11次	平成24年12月	18物質	5物質
第12次	平成25年12月	14物質	—
第13次	平成26年12月	14物質	4物質
第14次	平成27年12月	15物質	7物質
第15次	平成28年12月	14物質	1物質
第16次	平成29年12月	11物質	1物質
第17次	平成30年12月	13物質	4物質
第18次	令和元年12月	13物質 <sup>注2</sup>	3物質
物質数合計（再評価を含まない実物質数合計）		319（286）物質	178（92）物質

注1 キシレン異性体(*o*-, *m*-, *p*-体)を1物質とした。

注2 追加的に健康リスク初期評価を実施したアントラキノン（第9次取りまとめで追加的に生態リスク初期評価を実施）を含む。

### 3. 第19次取りまとめについて

#### (1) 概要

今回の第19次取りまとめにおいては、環境リスク初期評価（健康リスクと生態リスクの双方を対象とした評価）を11物質について、生態リスク初期評価を4物質について、それぞれ取りまとめた。取りまとめに当たっては、有識者で構成される環境リスク評価委員会の企画委員会及び曝露評価、健康リスク評価、生態リスク評価に関する各分科会において、数次にわたり議論をいただいたところである。

なお、第19次取りまとめとして初期評価を実施した物質については表2、表3を参照、検討体制については図1のとおりである。

#### (2) 物質選定について

第19次取りまとめに係る物質は、環境省内の関係部局や専門家から、各々の施策や調査研究において環境リスク初期評価を行うニーズのある物質を聴取し、その中の優先度の高いものから選定する「ニーズ方式」を基本として選定するとともに、環境調査において検出率が高かった物質などから有識者の意見などを踏まえて相対的に優先的に初期評価を行う必要性が高いと考

えられた物質を追加選定した。

また、初期評価において、曝露情報や有害性情報の収集の必要性が提言された物質で、新たにそれらの情報が得られた物質のうち、評価結果が変更となる可能性のあった物質等について再評価を実施した。

表2 第19次取りまとめ公表物質（環境リスク初期評価物質）

No.	CAS 番号	物質名	選定理由	過去の公表 <sup>注)</sup>
1	90-04-0	<i>o</i> -アニシジン	非意図的又は分解生成物質（特定芳香族アミン）	第2次（生態）
2	149-57-5	2-エチルヘキサン酸	届出外排出量が多い物質	
3	111-42-2	ジエタノールアミン	要望物質（水環境課）	
4	112-57-2	テトラエチレンペンタミン	環境中への排出量が多い物質	
5	11070-44-3	テトラヒドロメチル無水フタル酸	要望物質（大気環境課）	
6	91-59-8	2-ナフチルアミン	非意図的又は分解生成物質（特定芳香族アミン）	
7	94-13-3	4-ヒドロキシ安息香酸プロピル	要望物質（環境安全課）	
8	90-43-7	2-フェニルフェノール	環境中への排出量が多い物質	
9	98-73-7	<i>p-tert</i> -ブチル安息香酸	非意図的又は分解生成物質	
10	108-31-6	無水マレイン酸	要望物質（大気環境課）	
11	120-71-8	2-メトキシ-5-メチルアニリン	非意図的又は分解生成物質（特定芳香族アミン）	

注) 「過去の公表」欄の記載内容については、何次の取りまとめで公表したかを示した。また、「生態」とあるのは生態リスク初期評価の結果を、「健康」とあるのは健康リスク初期評価の結果を公表したことを示す。

表3 第19次取りまとめ公表物質（追加的に生態リスク初期評価を実施する物質）

No.	CAS 番号	物質名	選定理由	過去の公表 <sup>注)</sup>
1	5989-27-5	( <i>R</i> )-4-イソプロペニル-1-メチルシクロヘキサ-1-エン	環境リスクが高い可能性がある物質	
2	53-16-7	エストロン	要望物質（環境安全課）	
3	68-35-9	スルファジアジン	環境リスクが高い可能性がある物質	
4	154-21-2	リンコマイシン	環境リスクが高い可能性がある物質	

注) 「過去の公表」欄の記載内容については、何次の取りまとめで公表したかを示した。また、「生態」とあるのは生態リスク初期評価の結果を公表したことを示す。

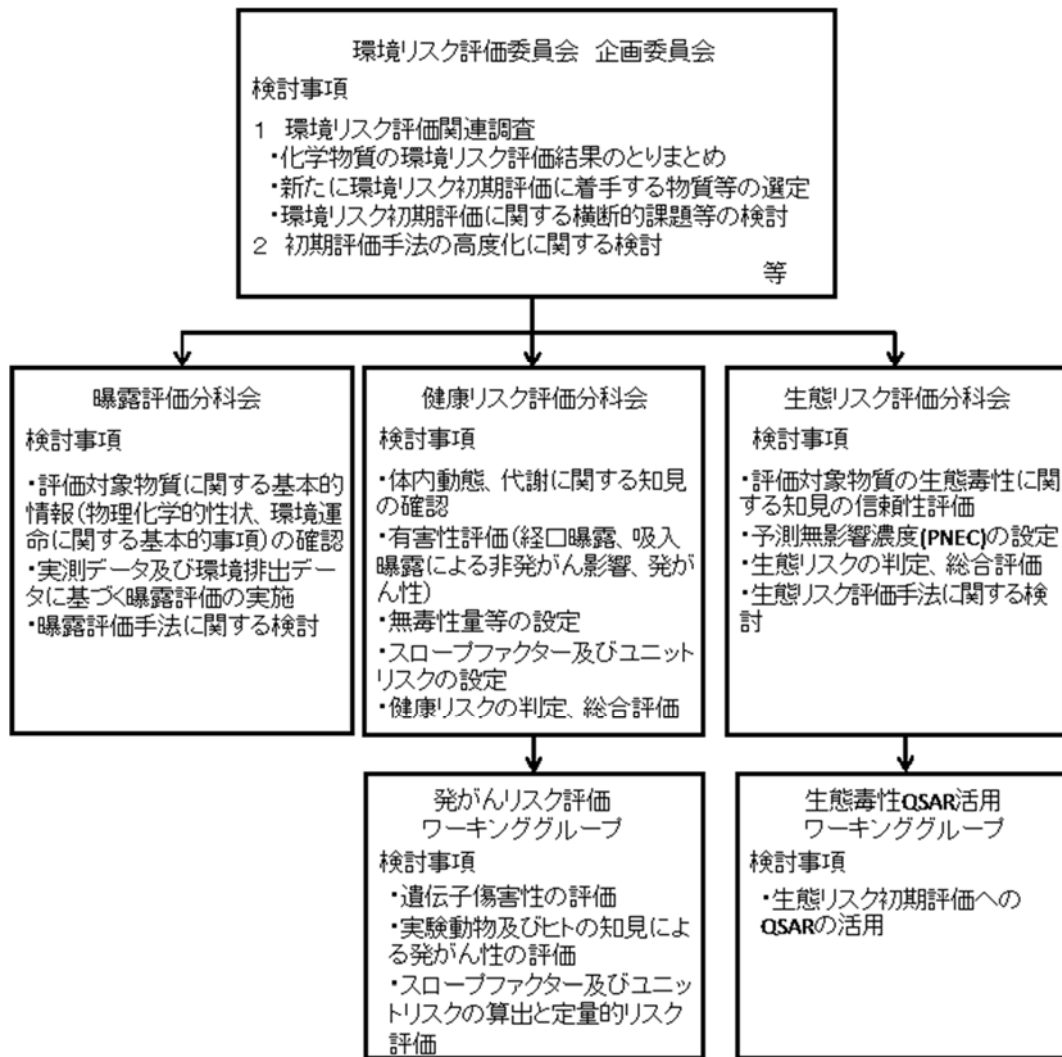


図1 環境リスク初期評価（第19次取りまとめ）の検討体制

○企画委員会

- |       |                             |
|-------|-----------------------------|
| 青木 康展 | 国立環境研究所名誉研究員                |
| 東 賢一  | 近畿大学医学部環境医学・行動科学教室准教授       |
| 内山 巖雄 | 京都大学名誉教授                    |
| 楠井 隆史 | 富山県立大学名誉教授                  |
| 小山 次朗 | 鹿児島大学名誉教授                   |
| 白石 寛明 | 国立環境研究所名誉研究員                |
| 鈴木 規之 | 国立環境研究所環境リスク・健康研究センター長      |
| 関澤 純  | 食品保健科学情報交流協議会顧問             |
| 中杉 修身 | 上智大学大学院地球環境学研究科元教授          |
| 山本 裕史 | 国立環境研究所環境リスク・健康研究センター副センター長 |

### ○曝露評価分科会

相澤 貴子	関東学院大学工学総合研究所研究員
大野 浩一	国立環境研究所環境リスク・健康研究センター主席研究員
片谷 教孝	桜美林大学リベラルアーツ学群化学専攻教授
川田 邦明	新潟薬科大学応用生命科学部教授
小坂 浩司	国立保健医療科学院上席主任研究官
櫻井 健郎	国立環境研究所環境リスク・健康研究センター リスク管理戦略研究室長
白石 寛明	国立環境研究所名誉研究員
鈴木 規之	国立環境研究所環境リスク・健康研究センター長
堤 智昭	国立医薬品食品衛生研究所食品部第二室長
中島 大介	国立環境研究所環境リスク・健康研究センター 曝露影響計測研究室長
中杉 修身	上智大学大学院地球環境学研究科元教授
三島 聡子	神奈川県環境科学センター調査研究部主任研究員

### ○健康リスク評価分科会

青木 康展	国立環境研究所名誉研究員
東 賢一	近畿大学医学部環境医学・行動科学教室准教授
岩澤 聡子	防衛医科大学校医学教育部医学科講師
小田切陽一	山梨県立大学大学院看護学研究科教授
菅野 純	国立医薬品食品衛生研究所客員研究員
小池 英子	国立環境研究所環境リスク・健康研究センター病態分子解析研究室長
佐藤 洋	岩手大学農学部共同獣医学科教授
立石 悠基	九州大学大学院医学研究院形態機能病理学共同研究員
中野真規子	慶応義塾大学医学部衛生学公衆衛生学教室講師
古山 昭子	国立環境研究所環境リスク・健康研究センター 統合化健康リスク研究室長
松本 理	国立環境研究所環境リスク・健康研究センターシニア研究員
武藤 剛	北里大学医学部衛生学講師

### ○発がんリスク評価ワーキンググループ

青木 康展	国立環境研究所名誉研究員
東 賢一	近畿大学医学部環境医学・行動科学教室准教授
小田切陽一	山梨県立大学大学院看護学研究科教授
佐藤 洋	岩手大学農学部共同獣医学科教授
松本 理	国立環境研究所環境リスク・健康研究センターシニア研究員

### ○生態リスク評価分科会

大嶋 雄治	九州大学大学院農学研究院教授
岡村 秀雄	神戸大学内海域環境教育研究センター教授
隠塚 俊満	水産研究・教育機構水産技術研究所主任研究員
楠井 隆史	富山県立大学名誉教授
小山 次朗	鹿児島大学名誉教授
坂本 正樹	富山県立大学工学部環境・社会基盤工学科准教授
庄司 良	東京工業高等専門学校物質工学科教授
菅谷 芳雄	国立環境研究所客員研究員
鑪迫 典久	愛媛大学大学院農学研究科教授
中杉 修身	上智大学大学院地球環境学研究科元教授
森 真朗	東京動物園協会元動物相談員
山岸 隆博	国立環境研究所環境リスク・健康研究センター 生態毒性研究室主任研究員
山本 裕史	国立環境研究所環境リスク・健康研究センター副センター長
渡部 春奈	国立環境研究所環境リスク・健康研究センター 生態毒性研究室主任研究員

### ○生態毒性 QSAR 活用ワーキンググループ

茂岡 忠義	横浜国立大学大学院元教授
白石 寛明	国立環境研究所名誉研究員
菅谷 芳雄	国立環境研究所客員研究員
山本 裕史	国立環境研究所環境リスク・健康研究センター副センター長
吉岡 義正	大分大学元教授

## 「化学物質の環境リスク評価」(第1巻～第18巻)の概要

## 第1巻 環境リスク初期評価 (39物質)

	健康リスク	生態リスク
詳細な評価を行う候補	フタル酸ジ(2-エチルヘキシル) アセトアルデヒド <i>p</i> -ジクロロベンゼン ホルムアルデヒド (4物質)	フタル酸ジ(2-エチルヘキシル) ホルムアルデヒド ディルドリン (3物質)
関連情報の収集が必要	8物質	6物質
相対的にリスクは低い	18物質	15物質
リスクの判定ができない	9物質	15物質

## 第2巻 環境リスク初期評価 (13物質)

	健康リスク	生態リスク
詳細な評価を行う候補	なし	4- <i>t</i> -オクチルフェノール クロロホルム ノニルフェノール (3物質)
関連情報の収集が必要	5物質	2物質
更なる作業を必要としない	5物質	5物質
リスクの判定ができない	3物質	3物質

## 第2巻 追加的に実施した生態リスク初期評価 (69物質)

	生態リスク	
詳細な評価を行う候補	アクロレイン EPN イソキサチオン イソプロチオラン イソプロベンホス エチレンジアミン四酢酸 オキシ銅 クロルニトロフェン ジクロロボス ダイアジノン	チウラム チオベンカルブ テトラクロロエチレン トリクロロエチレン トリフルラリン ピリジン フェニトロチオン フェノブカルブ ベンゾ[a]ピレン (19物質)
関連情報の収集が必要	3物質	
更なる作業を必要としない	14物質	
リスクの判定ができない	33物質	

### 第2巻 発がん性初期評価 (6物質)

	発がんリスク	
詳細な評価を行う候補	塩化ビニルモノマー ホルムアルデヒド	(2物質)
関連情報の収集が必要		1物質
更なる作業を必要としない		なし
リスクの判定ができない		3物質

### 第3巻 環境リスク初期評価 (21物質)

	健康リスク	生態リスク
詳細な評価を行う候補	アクロレイン ピリジン	アクロレイン エチレンジアミン四酢酸 ビスフェノールA ピリジン
	(2物質)	(4物質)
関連情報の収集が必要	2物質	2物質
更なる作業を必要としない	10物質	11物質
リスクの判定ができない	7物質	4物質

### 第3巻 追加的に実施した生態リスク初期評価 (32物質)

	生態リスク	
詳細な評価を行う候補	ニトリロ三酢酸	(1物質)
関連情報の収集が必要		なし
更なる作業を必要としない		12物質
リスクの判定ができない		19物質

### 第3巻 発がん性初期評価 (4物質)

	発がんリスク	
詳細な評価を行う候補	1,2-ジクロロエタン	(1物質)
関連情報の収集が必要		3物質

### 第4巻 環境リスク初期評価 (20物質)

	健康リスク	生態リスク
詳細な評価を行う候補	1-ブタノール	ニトリロ三酢酸
	(1物質)	(1物質)
関連情報の収集が必要	1物質	1物質
更なる作業を必要としない	13物質	12物質
リスクの判定ができない	5物質	6物質



**第4巻 追加的に実施した生態リスク初期評価（9物質）**

	生態リスク
詳細な評価を行う候補	なし
関連情報の収集が必要	なし
更なる作業を必要としない	2物質
リスクの判定ができない	7物質

**第5巻 環境リスク初期評価（23物質）**

	健康リスク	生態リスク
詳細な評価を行う候補	クロトンアルデヒド ベンゾ[a]ピレン (2物質)	p-クロロアニリン ジフェニルアミン ベンゾ[a]ピレン (3物質)
関連情報の収集が必要	0物質	2物質
更なる作業を必要としない	13物質	9物質
リスクの判定ができない	8物質	9物質

**第5巻 追加的に実施した生態リスク初期評価（6物質）**

	生態リスク
詳細な評価を行う候補	なし
関連情報の収集が必要	1物質
更なる作業を必要としない	2物質
リスクの判定ができない	3物質

**第6巻 環境リスク初期評価（21物質）**

	健康リスク	生態リスク
A. 詳細な評価を行う候補	なし	2,6-ジ- <i>t</i> -ブチル-4-メチルフェノール (1物質)
B. 関連情報の収集が必要	リスクはAより低いと考えられるが、引き続き、関連情報の収集が必要	2物質
	リスクの判定はできないが、総合的に考えて、関連情報の収集が必要	なし
C. 現時点では更なる作業の必要性は低い	9物質	17物質

注) 21物質のうち1物質については、生態リスク評価未実施。

**第6巻 追加的に実施した生態リスク初期評価 (11物質)**

		生態リスク
A. 詳細な評価を行う候補		直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩 ふっ化水素及びその水溶性塩 ほう素及びその化合物 マンガン及びその化合物 N-メチルカルバミン酸2,3-ジヒドロ-2,2-ジメチル-7-ベンゾ[b]フラニル (5物質)
B. 関連情報の収集が必要	リスクはAより低いと考えられるが、引き続き、関連情報の収集が必要	1物質
	リスクの判定はできないが、総合的に考えて、関連情報の収集が必要	2物質
C. 現時点では更なる作業の必要性は低い		3物質

**第7巻 環境リスク初期評価 (23物質)**

		健康リスク	生態リスク
A. 詳細な評価を行う候補		1,2,4-トリメチルベンゼン (1物質)	なし
B. 関連情報の収集が必要	リスクはAより低いと考えられるが、引き続き、関連情報の収集が必要	3物質	2物質
	リスクの判定はできないが、総合的に考えて、関連情報の収集が必要	2物質	2物質
C. 現時点では更なる作業の必要性は低い		17物質	18物質

注) 23物質のうち1物質については、生態リスク評価未実施。

**第7巻 追加的に実施した生態リスク初期評価 (10物質)**

		生態リスク
A. 詳細な評価を行う候補		5-クロロ-2-(2',4'-ジクロロフェノキシ)フェノール 1-デシルアルコール ポリ(オキシエチレン)ノニルフェニルエーテル (3物質)
B. 関連情報の収集が必要	リスクはAより低いと考えられるが、引き続き、関連情報の収集が必要	2物質
	リスクの判定はできないが、総合的に考えて、関連情報の収集が必要	0物質
C. 現時点では更なる作業の必要性は低い		5物質

**第8巻 環境リスク初期評価 (16物質)**

		健康リスク	生態リスク
A. 詳細な評価を行う候補		3価クロム化合物 ナフタレン (2物質)	3価クロム化合物 ジブチルスズ化合物 (2物質)
B. 関連情報の収集が必要	リスクはAより低いと考えられるが、引き続き、関連情報の収集が必要	3物質	0物質
	リスクの判定はできないが、総合的に考えて、関連情報の収集が必要	1物質	2物質
C. 現時点では更なる作業の必要性は低い		10物質	9物質

注) 16物質のうち3物質については、生態リスク評価未実施。

**第8巻 追加的に実施した生態リスク初期評価 (7物質)**

		生態リスク
A. 詳細な評価を行う候補		鉛及びその化合物 ポリ(オキシエチレン)=アルキルエーテル (2物質)
B. 関連情報の収集が必要	リスクはAより低いと考えられるが、引き続き、関連情報の収集が必要	0物質
	リスクの判定はできないが、総合的に考えて、関連情報の収集が必要	4物質
C. 現時点では更なる作業の必要性は低い		1物質

**第9巻 環境リスク初期評価 (14物質)**

		健康リスク	生態リスク
A. 詳細な評価を行う候補		過塩素酸 (1物質)	0物質
B. 関連情報の収集が必要	リスクはAより低いと考えられるが、引き続き、関連情報の収集が必要	0物質	4物質
	リスクの判定はできないが、総合的に考えて、関連情報の収集が必要	6物質	2物質
C. 現時点では更なる作業の必要性は低い		7物質	8物質

**第9巻 追加的に実施した生態リスク初期評価 (7物質)**

		生態リスク
A. 詳細な評価を行う候補		アントラキノン 3,4-ジクロロアニリン (2物質)
B. 関連情報の収集が必要	リスクはAより低いと考えられるが、引き続き、関連情報の収集が必要	1物質
	リスクの判定はできないが、総合的に考えて、関連情報の収集が必要	0物質
C. 現時点では更なる作業の必要性は低い		4物質

**第10巻 環境リスク初期評価 (17物質)**

		健康リスク	生態リスク
A. 詳細な評価を行う候補		酢酸エチル (1物質)	セリウム及びその化合物、 ヒドロキノン (2物質)
B. 関連情報の収集が必要	リスクはAより低いと考えられるが、引き続き、関連情報の収集が必要	6物質	4物質
	リスクの判定はできないが、総合的に考えて、関連情報の収集が必要	2物質	1物質
C. 現時点では更なる作業の必要性は低い		8物質	9物質

注) 17物質のうち1物質については、生態リスク評価未実施。

**第10巻 追加的に実施した生態リスク初期評価 (2物質)**

		生態リスク
A. 詳細な評価を行う候補		6価クロム化合物 (1物質)
B. 関連情報の収集が必要	リスクはAより低いと考えられるが、引き続き、関連情報の収集が必要	1物質
	リスクの判定はできないが、総合的に考えて、関連情報の収集が必要	0物質
C. 現時点では更なる作業の必要性は低い		0物質

第11巻 環境リスク初期評価 (18物質)

		健康リスク	生態リスク
A. 詳細な評価を行う候補		インジウム及びその化合物 (1物質)	コバルト及びその化合物 (1物質)
B. 関連情報の収集が必要	リスクはAより低いと考えられるが、引き続き、関連情報の収集が必要	5物質	1物質
	リスクの判定はできないが、総合的に考えて、関連情報の収集が必要	2物質	4物質
C. 現時点では更なる作業の必要性は低い		10物質	12物質

第11巻 追加的に実施した生態リスク初期評価 (5物質)

		生態リスク
A. 詳細な評価を行う候補		塩素酸 (1物質)
B. 関連情報の収集が必要	リスクはAより低いと考えられるが、引き続き、関連情報の収集が必要	0物質
	リスクの判定はできないが、総合的に考えて、関連情報の収集が必要	0物質
C. 現時点では更なる作業の必要性は低い		4物質

第12巻 環境リスク初期評価 (14物質)

		健康リスク	生態リスク
A. 詳細な評価を行う候補		ベンズアルデヒド (1物質)	ジメチルアミン (1物質)
B. 関連情報の収集が必要	リスクはAより低いと考えられるが、引き続き、関連情報の収集が必要	5物質	1物質
	リスクの判定はできないが、総合的に考えて、関連情報の収集が必要	0物質	0物質
C. 現時点では更なる作業の必要性は低い		8物質	12物質

第13巻 環境リスク初期評価 (14物質)

		健康リスク	生態リスク
A. 詳細な評価を行う候補		エチルベンゼン クロトンアルデヒド スチレン (3物質)	3,4-ジクロロアニリン チオ尿素 (2物質)
B. 関連情報の収集が必要	リスクはAより低いと考えられるが、引き続き、関連情報の収集が必要	3物質	2物質
	リスクの判定はできないが、総合的に考えて、関連情報の収集が必要	0物質	1物質
C. 現時点では更なる作業の必要性は低い		8物質	8物質

注) 14物質のうち1物質については、生態リスク評価未実施。

第13巻 追加的に実施した生態リスク初期評価 (4物質)

		生態リスク
A. 詳細な評価を行う候補		o-アミノフェノール メチル=ベンゾイミダゾール-2-イルカルバマート (2物質)
B. 関連情報の収集が必要	リスクはAより低いと考えられるが、引き続き、関連情報の収集が必要	0物質
	リスクの判定はできないが、総合的に考えて、関連情報の収集が必要	1物質
C. 現時点では更なる作業の必要性は低い		1物質

第14巻 環境リスク初期評価 (15物質)

		健康リスク	生態リスク
A. 詳細な評価を行う候補		1,1-ジクロロエチレン (1物質)	セレン及びその化合物 (1物質)
B. 関連情報の収集が必要	リスクはAより低いと考えられるが、引き続き、関連情報の収集が必要	2物質	3物質
	リスクの判定はできないが、総合的に考えて、関連情報の収集が必要	4物質	2物質
C. 現時点では更なる作業の必要性は低い		8物質	6物質

注) 15物質のうち3物質については、生態リスク評価未実施。

第 14 巻 追加的に実施した生態リスク初期評価 (7 物質)

		生態リスク
A. 詳細な評価を行う候補		N,N-ジメチルオクタデシルアミン N,N-ジメチルドデシルアミン (2物質)
B. 関連情報の収集が必要	リスクはAより低いと考えられるが、引き続き、関連情報の収集が必要	0物質
	リスクの判定はできないが、総合的に考えて、関連情報の収集が必要	1物質
C. 現時点では更なる作業の必要性は低い		4物質

第 15 巻 環境リスク初期評価 (14 物質)

		健康リスク	生態リスク
A. 詳細な評価を行う候補		1,2,3-トリメチルベンゼン (1物質)	アンチモン及びその化合物 (1物質)
B. 関連情報の収集が必要	リスクはAより低いと考えられるが、引き続き、関連情報の収集が必要	5物質	4物質
	リスクの判定はできないが、総合的に考えて、関連情報の収集が必要	3物質	1物質
C. 現時点では更なる作業の必要性は低い		6物質	8物質

第 15 巻 追加的に実施した生態リスク初期評価 (1 物質)

		生態リスク
A. 詳細な評価を行う候補		0物質
B. 関連情報の収集が必要	リスクはAより低いと考えられるが、引き続き、関連情報の収集が必要	0物質
	リスクの判定はできないが、総合的に考えて、関連情報の収集が必要	0物質
C. 現時点では更なる作業の必要性は低い		1物質

第 16 巻 環境リスク初期評価 (11 物質)

		健康リスク	生態リスク
A. 詳細な評価を行う候補		0 物質	銀及びその化合物 ジオクチルスズ化合物 ジブチルスズ化合物 ビス(2, 2, 6, 6-テトラメチル-4- ピペリジル)セバケート (4 物質)
B. 関連情報の収集が必要	リスクはAより低いと考えられるが、引き続き、関連情報の収集が必要	3 物質	3 物質
	リスクの判定はできないが、総合的に考えて、関連情報の収集が必要	1 物質	0 物質
C. 現時点では更なる作業の必要性は低い		8 物質	4 物質

第 16 巻 追加的に実施した生態リスク初期評価 (1 物質)

		生態リスク
A. 詳細な評価を行う候補		クラリスロマイシン (1 物質)
B. 関連情報の収集が必要	リスクはAより低いと考えられるが、引き続き、関連情報の収集が必要	0 物質
	リスクの判定はできないが、総合的に考えて、関連情報の収集が必要	0 物質
C. 現時点では更なる作業の必要性は低い		0 物質

第 17 巻 環境リスク初期評価 (13 物質)

		健康リスク	生態リスク
A. 詳細な評価を行う候補		0 物質	0 物質
B. 更なる関連情報の収集が必要		6 物質	2 物質
C. 現時点では更なる作業の必要性は低い		7 物質	10 物質

注) 13 物質のうち 1 物質については、生態リスク評価未実施。

第 17 巻 追加的に実施した生態リスク初期評価 (4 物質)

		生態リスク
A. 詳細な評価を行う候補		0 物質
B. 更なる関連情報の収集が必要		4 物質
C. 現時点では更なる作業の必要性は低い		0 物質



第 18 巻 環境リスク初期評価 (12 物質)

	健康リスク	生態リスク
A. 詳細な評価を行う候補	0 物質	0 物質
B. 更なる関連情報の収集が必要	3 物質	7 物質
C. 現時点では更なる作業の必要性は低い	9 物質	5 物質

第 18 巻 追加的に実施した健康リスク初期評価 (1 物質)

	健康リスク
A. 詳細な評価を行う候補	0 物質
B. 更なる関連情報の収集が必要	1 物質
C. 現時点では更なる作業の必要性は低い	0 物質

第 18 巻 追加的に実施した生態リスク初期評価 (3 物質)

	生態リスク
A. 詳細な評価を行う候補	スルファメトキサゾール (1 物質)
B. 更なる関連情報の収集が必要	2 物質
C. 現時点では更なる作業の必要性は低い	0 物質